



国民の森林・国有林

新たな保護林設定に向け 森林基礎調査始まる！

【宮崎南部森林管理署】宮崎南部森林管理署では2箇所目となる保護林設定に向け、森林基礎調査業務委託者（九州自然環境研究所）が7月27日から自動撮影カメラとコウモリトラップの設置を実施しました。

初日の現地はいくの雨模様でしたが、九州森林管理



作業についての説明を受ける様子

局計画課4名、当署4名が同行しカップを着込み天然林へ入り込みました。

今回11箇所自動撮影カメラ等を設置する予定で、当日は1箇所設置となりましたが、自動撮影カメラ・コウモリトラップの設置方法やなぜコウモリ観察が大切か等の説明を聞くことにより、大変勉強になった同行でした。

九州自然環境研究所は3日間程度で全てのトラップ等の設置を終了する予定です



樹洞に向けて自動撮影カメラを設置



コウモリトラップを設置

あり、当署では自動撮影カメラにシカが撮影された場合と糞の確認があった場合は、情報の提供をお願いし、ニホンシカの生息状況を把握することとしています。

安全週間の行事 安全大会を開催

【福岡森林管理署】7月2日、当署において安全大会を開催しました。

冒頭の佐藤肇署長からの挨拶では、「災害」に繋がるミスを防ぐためには食事管理も重要であり、糖質に偏らず栄養バランスの良い食事を取るこ

とにより安定した精神状態を保つことができ、新型コロナウイルスへの抵抗力をつけることにも繋がるので、是非取り組んで欲しい」との呼びかけがありました。

安全会議においては、浅尾純治総括治山技術官、小野稔和森林整備官が講師となり、「熱中症対策」「心肺蘇生法（救急法）」について資料及びDVDにより説明を行うとともに、心肺蘇生法では、現場出張時に発生した場合を想定し、ユーモアを交え工夫しながらケーススタディを行いました。

午後からは、福岡県早良警察署警部補を講師に招き、福岡県における交通事故の現状や交通事故の事例、飲酒運転、および運転、自転車条例などについて交通安全講話を受けました。特に、福岡市で危険運転致死傷罪が適用された、飲酒運転による追突で幼い子供3人が亡くなった傷ましい事故を教訓に製作されたDVD「飲酒運転ゼロをめざして、アルコールと運転」を視聴し、飲酒運転は絶対にしないことを確認しました。

その後、安全標語の優秀作品6点の表彰を行いました。



安全会議の様子

国家公務員安全週間の取組として全職員参加の下で安全大会を開催しました。

大会では川畑充郎署長の挨拶の後、局長メッセージを披露。次に、下大迫伸一総括森林整備官より職員から応募のあった69点の中から、安全標語の入選作品の紹介が行われ、永野達也熊本森林官と藤本順也大矢首席森林官が森林事務所で日頃から取り組んでいる安全の取組について発表しました。

また、菊池警察署交通課長から横断歩道での事故防止、通勤時等の運転の注意点や改正道路交通法等についての交通講話を行って頂き、最後に西田卓也森林整備官補が安全大会宣言を行い、当署にお

ける安全を全職員で誓い合いました。

一方、午後からは菊池市中央公民館において、新型コロナウイルス感染症拡大で延期していた請負事業体等安全会議を事業実行中8社の事業体関係者と当署関係者総勢42名が参加して開催しました。

会議では、冒頭、川畑署長から「熊本署管内からは災害を出さないよう、原点に立ち返ってより一層の安全対策を徹底して頂きたい」と挨拶。次に、溝越啓二次長から九州局内の請負事業体労働災害の状況等の説明や、指差呼称に関するDVDの視聴を行い労働災害の現状や未然防止に向けた対策等について学んで頂きました。

また、菊池労働基準監督署監督官から林業労働災害発生の現状、災害発生日例、熱中症対策、労働安全衛生規則の一部改正等について、細かく指導して頂きました。

最後に各社の代表者から、現在取り組んでいる安全対策についての発表を交えて意見交換を行うとともに、本年度のゼロ災と安全を祈念して安全合唱「ゼロ災でいこう。ヨシ！」で締めくくり、参加者全員で決意を新たに閉会しました。

署安全大会と事業体等安全会議を開催

【熊本森林管理署】7月1日の午前中、当署会議室において3密にならないよう新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じた上で、令和2年度



事業体等安全会議の様子

全職員で安全意識の高揚を

【西都児湯森林管理署】7月1日、令和2年度西都児湯森林管理署安全週間に伴い、現場・署が一体となり全職員参加の下、安全旗の掲揚を行い安全意識の高揚を図ることをしました。

当日は、当署の駐車場脇にある掲揚台に集合し、鶴山道弘署長による安全旗の掲揚を全職員参加の下で行い、その後、署長から全職員に対し「令和2年度も健康安全管理重点目標に定める、重大災害・災害件数・通勤災害の0（ゼロ）の目標達成に向け職員一人丸となり取り組み、併せて



全職員参加の下、安全旗を掲揚

請負事業体等の災害についても0災害となるように」と挨拶。署長挨拶のあと、奥村克次長より、異常天候下における安全の確保及び森林官等が単独行動とならないための方策、新型コロナウイルス感染症予防対策等について周知を行いました。

最後に全職員でタッチアンドコールを行い「0災害」を誓い合い安全週間初日の日程を終了しました。

交通法令講習を開催

【宮崎南部森林管理署】7月3日、当署会議室において、日南警察署から榎木田警部補を講師に招き、交通法令講習を行っていただきました。

この講習は、当署の「健康安全管理計画書」に基づくもので当日行った安全衛生大会の中で実施し、署内職員32名が参加しました。

講習では、昨年12月に道路交通法が改正された、運転中の携帯電話等の注視、いわゆる「ながら運転」の罰則強化や「あたり運転」と解される危険行為には、どんな行為が該当するかなど詳細に講話をいただきました。また、「交



榎木田警部補による法令講習会の様子

開催しました。

安全大会では、永山正一署長から、安全週間にあたり『重大災害の絶滅』『労働災害の未然防止（ゼロ災害の継続）』『心とからだの健康』の保持増進』『交通安全の防止及び交通法規の遵守の徹底』の4点について本年度の健康安全管理重点目標として取り組んでいるところであり、林野庁のスローガン「経験と知識に潜む油断の芽」の下、引き続き健康・安全に職員一丸となってみんなで取り組もうと挨拶。つづいて、小島九州森林管理署長からのメッセージを署長が読み上げ職員への周知を行った後、職員か

ら応募された多数の安全標語の中から、入選作品12点を発表し入選者への表彰を行いました。

法令講習では、鹿児島中央警察署交通課の上木原警部補を招き、県内の交通事故・違反の発生状況や6月30日に施行された改正道路交通法等について説明を受けました。改正道路交通法では、あおり運転厳罰化の内容などあおり運転を受けにくいことや防止に繋げる行動などについてのDVD鑑賞も行いました。

安全大会では最後に、山口利明技官が「安全大会宣言」を読み上げて、全職員で職員災害及び請負事業体等の労働災害の未然防止について誓いました。

安全大会及び安全勉強会を開催

【鹿児島森林管理署】7月2日、全職員出席のもと令和2年度安全大会と安全勉強会を

この講習を契機に、職員一丸となって、飲酒運転の根絶はもとより、絶対に事故・違反を起こさないよう、引き続き交通安全の確保に取り組んでいきたいと考えています。



改正道路交通法等の説明を行う上木原警部補

午後からは、安全勉強会として、鹿児島県の専門防災アドバイザーの津田様から「自主防災組織と避難訓練・大雨による土砂災害と台風災害の備え」と題して自ら防災組織を立ち上げた体験談や避難訓練の効果的な実施方法や土石流災害の危険信号などについて講話を頂き、日頃から防災について意識を高めておくことの重要性など全職員が更に防災に対する認識を深めて安全大会と安全勉強会を終りました。

シカ被害対策

新たな「シカ被害対策協定」を締結

【西都児湯森林管理署】7月9日、川南町役場庁舎内において西都児湯森林管理署、川南町及び川南町有害鳥獣対策協議会の3者によるシカ被害対策協定書の締結・調印式を行いました。

西都児湯森林管理署では、平成28年に木城町、平成29年には西都市、西米良村と協定を締結しており、昨年度は1500頭程のシカ捕獲実績となっております。

今回の協定締結で4協定目となりますが、一層のシカ捕獲につながることが期待しています。

調印式では、協定締結に当たり日高昭彦川南町長より、「署の取り組みに感謝します。二ホンシカ被害対策推進のために、更なる協力体制を構築し、農林業被害及び生態系被害の防止を図っていきましょう」と挨拶がありました。全国的に二ホンシカ被害へ



調印式を終えて記念撮影

有害鳥獣捕獲研修を実施

【宮崎北部森林管理署】7月15日、本署会議室において有

の対策が求められている中、当署管内においても二ホンシカ被害が課題となっており、民国連携による捕獲やシカ防護ネット（宙かせ張り方式）等の現地検討会等を行うとともに、今後においてもシカの生息状況や農林産物等の被害状況を継続的に把握するとともに、引き続き、民国連携した情報の共有化を図るなど、署と市町村・協議会等が一体となり一層のシカ被害対策に努めていくこととしています。

害鳥獣捕獲に従事する職員の研修を実施しました。

今年度は有効期限が切れる2名と新規2名の計4名が対象で、特に新規受講者は現場におけるシカ食害等の被害を日々実感し少しでも被害減少を自ら取り組むために森林事務所勤務の森林官補並びに地域技術官が進んで受講しました。当署は、シカ被害対策協定を管内ほぼ全市町村と締結しており、また、誘引捕獲委託事業も実施するなど、シカ被害対策へ職員一丸となって取り組んでいます。

今後、変わらず地域一体となってシカ被害対策を精力的に実施していきたいと考えています。



講義の様子

県南地域はシカばかり 11名が有害鳥獣捕獲研修を受講

【宮崎南部森林管理署】宮崎県南部に位置する当署は、シカが生息していない地域と言われているようですが、3年前に日南市でシカの日撃情報が発生されており、近年では国有林内の自動カメラにシカが撮影されたり、日南市・串間市でシカが捕獲されるなど県南地域へシカの侵入が確認されています。

こうした中、県南地域では6月に南那珂地区シカ進入対策連絡会議も開催され、情報共有や合意形成等を図りながら、捕獲等の対策を講じる事でシカ被害を未然に防止することとしています。

その対策の一つとして、当署では職員が有害鳥獣捕獲に従事できるよう毎年研修会を計画しており、7月28日に今年度も鳥獣保護管理法等の関係する法律等と内容とする有害鳥獣捕獲研修を森林官・森林技術員などベテランから新規採用者まで幅広い層の職員11名が寺田雄一郎森林技術指導官の講義を熱心に受講しました。

今後、管内の造林地等にシカ

力による森林被害が発生した場合は、速やかに効果的な罠の設置等の被害防止対策に取り組んでいきます。



寺田森林技術指導官による講義の様子

菊池市・大津町地域の 運営会議を開催

【熊本森林管理署】7月21日、

当署会議室において、令和2年度の菊池市・大津町地域森林整備推進協定運営会議を協定者である菊池市、大津町、菊池森林組合及び当署の関係者、オブザーバーとして熊本県県北広域本部長事務関係者も参加して19名で開催しました。

本整備協定は、平成27年9月の協定締結から5ヶ年が経過し本年3月末で協定期間

が終了することから、昨年度に協定者間で調整を行い令和7年度末まで期間を更新して本年度から第2フェーズに入りました。

会議は甲斐誠一森林技術指導官の司会進行により、冒頭川畑充郎署長が協定者を代表して「新しいフェーズにおいて、これまで以上に各協定者間の連携協力を密接に行い、本施業団地の取組が他のモデルとなるよう参りたい」との挨拶の後、各協定者から令和元年度の取組実績、令和2年度の取組予定の報告がなされた。参加者で確認を行いました。

最後に、当署から本年度の重点取組事項等の情報提供を行うとともに、森林経営計画



冒頭、挨拶する川畑署長

の作成促進、市町村職員への技術的支援等の林政課題について活発な意見交換を行いました。なお、当日予定していた民有林から国有林内への林業専用道の連結に係る現地検討会は、令和2年7月豪雨による道路の通行止めのため実施することは出来ませんでした。早期の連結に向けて引き続き関係者で協議していくことを確認して運営会議を終了しました。

令和2年度新規採用研修 及び基礎全般研修を実施

まずは、7月の九州地方豪雨により被災された職員や被災地の皆さんに対して、お見舞い申し上げます。また、被災地への復旧に携わられている職員の皆さんにも感謝申し上げます。

さて、令和2年6月29日から30日の2日間において、令和2年度一般職員採用者18名を対象に新規採用研修を実施しました。

局長訓示をはじめとして次長、総務企画部長から講話を頂き、国有林の全国的な取組や九州局の取組等について、各講師から分かりやすく説明を頂きました。



さらに、7月1日から3日までと7月13日から17日まで計8日間においては、基礎全般研修（前期・後期）を実施し、九州局における業務全般の基礎について、局全課のご協力を頂き無事終了いたしました。

今年度の研修においては、新型コロナウイルス感染症の拡大により、当初計画が大幅に変更となつての実施となつ

（担当）研修主任 菅原 千二郎

たところで新規採用者にとつては、採用され3ヶ月目でやっと同期と会うことができた喜びと同時に今後業務を経験していく中で相関しやすいつながりを持つことができた研修となりました。また、令和となって初めての新規採用者18名の皆さんには、その若い力を十分に發揮して頂き、九州の国有林の新たな未来を築く立役者となつてくれることを期待いたします。

最後に局長や幹部の皆様、そしてこの研修にご協力頂いた講師の皆様方にお礼と感謝を申し上げます。



菅原 千二郎さん

私が所属しているNPO法人ワークながさき（2000年3月設立）は地球温暖化等による環境問題について、会員同士が

人数350名）、②竹林整備活動に併せて、イノシシ等の野生鳥獣対策としてワイヤーメッシュなどの対策を実施（年数回、実施24名の活動）の森林ボランティアへの登録と同時に活動しております。さらに、

（長崎野母崎サイクリングロード）の一部を環境保全林緊急整備事業（里山林整備）として行うべく準備を進めております。なお、事業開始予定は9月となっておりますが、対象区間における長崎県の里山整備工事も3月に完了して

山林整備）を行うに当たって、NPO法人ワークながさきの責任者として、各地の里山整備事業等や国有林モニタリーに参加し知識を深めると同時に、今後のNPO活動を含めた取り組みにも生かしていきたいと思っております。

地域の住民と一緒に became 里山森林景観の維持活動

共実践活動し、また、これに関わる事業を行い環境の保全に寄与することを目的に設立され、会員約40名で活動しております。環境保全活動として、①地域の自治会を巻き込んだ清掃活動（1回/年 参加

も荒廃が進んでおり、地域住民（自治会）と一緒に、里山林景観の維持活動、侵入竹の伐採・除去活動で、荒れていく里山林や竹林の整備を計画申請し、今年度、地域にある長崎野母崎自転車道

いることから、9月までの間は長崎県の森林ボランティアとして侵入竹の伐採活動をしておりません。但し会員の高齢化もあり実働可能な会員は20名程の規模です。

環境保全林緊急整備事業（里

森林・林業・国有林に関して、地域との間に距離感があり、なじみが薄かったのですが、個人的に「日本の長崎びわを応援する会」でびわ農家の人々と交流する中で有害鳥獣の被害を目にするにつけ、森林、耕作地の荒廃は深刻な問題と感じております（長崎市在住）



竹林の間伐作業の様子

安全運転講習会参加

【宮崎南部森林管理署】7月20日、日南自動車学校において、安全運転講習会が開催されました。

この講習会は、日南地区安全運転管理者等協議会が主催するもので当署から松永貞弥次長が参加しました。

講習会では、日南警察署交通課長から県内及び日南警察署管内の交通事故の状況について説明の後、図形や数字などを用いた適性検査が行われ予想以上の厳しい診断結果に自分の運転適性について、知ることができました。



運運転実技に出発する松永次長

続いて、自動車教習場のコースにおいて、運転実技が行われ、車庫入れやクランク走行など数十年ぶりに体験し緊張感を持った運転となりました。

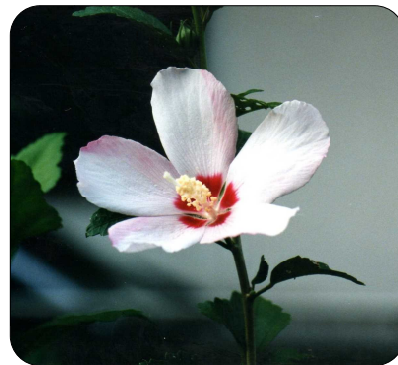
実際に教習を受けると、左折時に大回りをしていることや、方向指示器を出すタイミングなど安全運転のための操作や動作の低下を認識させられました。



153 ムクゲ (アオイ科)

我が家の猫の額ほどの庭にたった一本のムクゲがあり、夏になると10数本の枝を四方に伸ばします。花が咲いている間は良いが、終わると剪定して塵に出すのが大変です。それほどに枝は勢い良く伸びます。

春に伸ばした枝に花芽をつけることから、花は際限なくというほどに咲きます。花は朝咲いて夕方に散る1日花と



考えられています。2日目も咲いている枝もあります。中国(支那)、インド原産の落葉低木で普通生垣としてまたは鑑賞のために植えられます。幹は直立し分岐し、灰白色で、高さは3m位になり、枝はしなやかで強いです。葉は葉柄があり互生し、卵形で3浅裂し、不正の荒い鋸歯があり、下部は広い楔型となっています。

夏から秋にかけて枝に短い柄を持った花をつけます。普通は紅紫色ですが、白色や花の底が紅色の品種、また、重弁の品種と数多くあります。ムクゲは挿し木で簡単に増やすことができ、いつでも挿し木できますが、葉の出る前の3〜4月が適期となっています。

森林インストラクター
安案 行雄



先日、NHKスペシャル、タモリ×山中伸弥「人体VSウイルス」の放送を観た。TBS日曜劇場、半沢直樹「倍返し」もおもしろいが、人体とウイルスには長い歴史があり、共存していかねばならないことを久しぶりに実感させられた放送だった▼今、世界や日本各地で起きている新型コロナウイルスや自然災害、これからは我々人間にとって避けては通れない問題である▼このような自然災害と我が職場の現場である国有林もこれまで長い歴史の中で何とか共存しながら歩んできた▼ところで、朝食には「魚介の缶詰」で鉄分を補給することがおすすすめとのこと。鉄分には貧血予防だけでなく、暑い時期には汗で失われやすいので鉄分を補給することが大切だそう▼サバ缶やアサリ缶を鉄分の多い納豆と合わせたり、卵に加えて卵焼きにしたり、工夫して食べれば美味しい▼このように、新型コロナウイルス対策や自然災害に対しても、発想の転換(更新)をすることが求められているのでは

【Y】